

令和3年度当初予算において意見を反映した主な事業

◎意見数 35

(単位:千円)

テーマ1 次代を担い地域を支える人材の育成・確保

「新型コロナウイルスという災害を克服するためには、地域の助け合いが必要である。将来の地域を担う子供たちに向けて、学校で助け合いの心を醸成する教育が必要ではないか」

⇒ 新型コロナウイルス感染者等への偏見や差別の防止に関する指導を丁寧に行う。また、これに留まることなく、いじめの撲滅や好ましい共生社会を目指すため、地域でのボランティア活動体験や、スクールカウンセラーによる助け合いに関する専門的な学級指導等を展開し、学校における道徳教育・人権教育の充実に取り組む。
(チーム学校による相談体制の強化事業費【拡充】 176,810)

テーマ2 競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化

「ブランド力のある農産物を生産し、若い担い手が元気に農業に取り組めるよう、他産業と比較しても劣らない報酬が得られる農業経営への取り組みが必要ではないか」

⇒ 所得向上の実現に向け、デジタル技術の活用や海外展開への支援などの取り組みにより、本県農林水産物の高付加価値化やブランド化を図る。スマート農業の拡大やオンラインを活用した国内外への新たな販路開拓に取り組むほか、高度な農林業の人材育成に向け東北農林専門職大学(仮称)の整備を進める。
(農林水産デジタル化推進事業費【新規】 84,470)

テーマ3 高い付加価値を創出する産業経済の振興・活性化

「政府はGoToトラベルキャンペーンといった経済対策を進めているが、身近に魅力的な場所があることを発見するのも、素晴らしい旅だと思う。県では、県内や近隣地域への旅をさらに重点的に推奨してはどうか。」

⇒ コロナ禍において、県内の観光資源の再発見につながるような観光プロモーションを行い、県内周遊の促進に取り組んでいる。令和3年4月から開催される「東北デスティネーションキャンペーン(東北DC)」に向け、近隣県や関係機関と連携しながら情報発信を強化していく。
(東北DC事業費【継続】 39,400)

テーマ4 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり

「新型コロナウイルスに関する相談体制・PCR検査体制の拡充による陽性反応者の洗い出しなど、強い症状ではない人や感染可能性の不安がある人もすぐに相談・検査できるように体制を強化することが、感染拡大の防止につながるのではないか。」

⇒ 自覚症状がなく濃厚接触者にも該当しない県民や企業関係者の間において感染に対する不安が高まっていることから、自費によるPCR検査や陰性の証明に対するニーズに対応するため、「山形県PCR自主検査センター」を設置するとともに、コールセンター等による相談体制の充実に努める。
(新型コロナウイルス感染症緊急対策費【新規】 13,978,027)

テーマ5 未来に向けた発展基盤となる県土の整備・活用

「農村環境保全指導員の活動は、里山保全を通して人の思いやりを育む大切な取り組みであり、今後益々重要になってくると思うので、保全指導員の体制も含め、農村環境保全活動を強化する必要があるのではないか」

⇒ 農村環境保全活動に対する指導員の関わりを強化するため、研修会の開催による地域ネットワークの強化や保全意識の向上を図っていく。県民向け情報紙「農楽里(norari)」や総合支庁が発刊する「指導員だより」等において、活動を通じた人とのつながりの大切さ等について今まで以上に強調しながら、農村環境保全の重要性を広く発信する。
(農村環境保全指導員活動支援事業費 等【継続】 2,576)